

2025 年度松溪会事業計画

2000年より始められた少子化対策は待機児童対策と併せて進められ、保育事業にとっては急速な施設整備、幅広い事業者の参入が行われ、不足する保育職員についても処遇改善が進められた。しかし、待機児童対策の最終年度となった少子化傾向は留まらず、待機児童対策による保育定員の拡大を図った結果、保育所では保育定員を割り込み事業の統廃合が語られている。そして2024年に対し、2025年より新たな保育政策が示された。改めて保育の量から質へのスローガンが掲げられた。そして保育の多機能化、多様化を求めている。

松溪会では『選ばれる保育施設となる』を事業方針に定めて3年目を迎える。施設環境の充実、職員育成の推進、業務の見直しとICT化の推進、発達障害児への支援強化等を行い、現場の努力に支えながら周辺の保育所と比較しても人気度の高い保育施設となっている。保育の質に注視しながらも良い取り組みを継続し、改善すべきところは改め、下記の課題点に取り組む年度としたい。

(継続すべき取り組み)

1. 職員研修を初任者段階に加えて中堅職員、管理者段階まで引き上げ、人材育成に取り組む
2. 保育士ラダーに基づく評価に基づく処遇改善の実施と目標管理面接の実施
3. 児童発達支援への取り組みを継続し、児童発達支援管理者を育成する
4. 第三者評価と同等の相互評価を行い、質の向上を目指す

(新たな取り組み)

1. 事業継続に向けた組織体制を見直し次の時代に備える
2. 職員処遇改善交付金を最大限に活かした職員待遇の向上
3. 職員体制を整えるために職員採用の外部委託を活用する
4. 保育環境の整備を更に進め、職員の休憩等の環境を整える
5. 誰でも通園制度の取り組み等、新制度が求める保育を検証し実行する

(課題に対する取り組み)

1. おかさま: 休日保育に対するニーズは高いものの職員配置と職員負担が大きく、採算性に乏しい。しかし、休日保育を実施する施設だからこそ選ばれている事もあり、課題点を整理して継続的な取り組みが出来る仕組みをつくる。
2. おかさき; 学童保育の必要性は近隣の小学校による大型学童があっても変わらない。事業の継続性のために名称変更、プログラム開発、障害児対応に向けて取り組む。
3. おかさき; 発達障害児認定の仕組みが湖西市では整うことは難しく、認定を受けないまま成長していく児童に対し、療育の専門性を確保していく
4. 市野与進; 定員変更により基準に基づく保育面積の運営を安定させ、関係行政に対してインクルーシブな保育施設となるための施設整備について働きかけを継続する。